

2012 年 9 月 20 日

人文地理談話会

科研費基盤 A：フィールドワーク方法論の体系化 ―データの取得・管理・分析・流通に関する研究―

研究会報告

筑波大学生命環境系

兼子 純

流通業における聞き取り調査 ～その研究倫理とマナー～

発表要旨

フィールドワークへの関心・注目が高まる中で、本発表は流通業に対する発表者による経験を紹介し、聞き取り調査でのマナー及びフィールドワークにおける研究倫理の視点を考える。フィールドワークに関する先行研究や図書は、佐藤（1992）の研究に代表されるように多数の蓄積があり、方法論や概念については一定の体系化がなされている。これらの先行研究は、聞き取り調査の前のハウツー本としてではなく、調査者が自らの立ち位置や調査手法の確認をする際に有効である。調査者とインフォーマントとの関係を維持するには、共通認識や共感を得ること、使用する言語や用語の理解、スケジュールの一致が重要である。発表者のチェーンストアに対する調査経験（兼子 2000）から、聞き取り調査前後の注意点を紹介した。聞き取り時のマナーとして、調査中の柔軟な対応が重要であるとともに、フィールドワークにおける過度の体系化やマニュアル化を批判し、研究倫理の導入が必要とされている事例を紹介した。

・発表の目的

- ＞流通業に対する発表者による経験を紹介
- ＞聞き取り調査でのマナーを考える
- ＞フィールドワークにおける研究倫理の視点

・フィールドワークへの関心・注目

- ＞「フィールドワーク」というワードへの憧憬
- ＞「フィールドワーク」が含む範囲
- ＞定量的 vs 定性的？
- ＞演繹的 vs 帰納的？

・フィールドワークに関する先行研究

・地理学における聞き取り調査の習得

- ＞学部レベル
- ＞大学院レベル
- ＞研究者レベル

・調査者とインフォーマントの関係

- ＞共通認識・共感
- ＞言語・用語
- ＞スケジュール

・流通業への聞き取り調査の経験から ～修士論文の調査～

- ＞論文の概要（兼子 2000）

本研究は、ホームセンター（以下、HC）チェーンにおける出店・配送システムの空間構造を解明することを目的とする。新潟県に本部を置くK社を事例企業として、その施設の立地展開と、商品の配送システムを分析した。その結果、発注情報が事業本部への一極集中型を示すのに対して、配送はその商品特性により、重層的な空間構造を

形成している。物流センターから各店舗への配送では、夜間、午前、午後の配送時間帯による配送範囲の形成が認められた。これは①商品回転率が低いこと、②食品を扱わないこと、③配送時に混載が可能であること、④配送時間帯が柔軟であること、といったH Cの商品特性により、物流費を削減する取組みを反映した結果である。商品の鮮度や形状を重視する園芸関連商品や重量のある建築用ブロックは、K社物流センターには集約されず相対的に配送範囲が細分化されている。H Cチェーンの運営は、物流費の低減にその重点が置かれており、多店舗化・広域化という出店行動を規定している。

・聞き取り調査前後の注意点

＞聞き取り前

- ・アポイントの取り方
- ・事前の資料収集
- ・誰に聞くのか
- ・聞き取りの時間

＞聞き取り後

- ・礼状の意味
- ・サンプル数とデータ量
- ・データの管理
- ・執筆内容の確認

・聞き取りのマナー

＞意外性への柔軟な対応

＞「インフォーマント」という不遜な考え方

＞フィールドワークにおける過度の体系化・マニュアル化の弊害

・研究倫理について

＞科学者の不正行為：盗作，データ捏造，アカハラ

＞人（ヒト）を対象とする研究・実験

・研究倫理の導入

・筑波大学における研究倫理審査

・フィールドワークの研究倫理

＞インフォームド・コンセント

＞対象者のプライバシー保護

＞対象者に対する結果のフィードバックと社会還元

【文献】

市川健夫（1985）：『フィールドワーク入門』古今書院。

上野健一・久田健一郎編（2011）：『地球学シリーズ3 地球学調査・解析の基礎』古今書院。

梶田 真・仁平尊明・加藤政洋編（2007）：『地域調査ことはじめ—あるく・みる・かく—』ナカニシヤ出版。

兼子 純（2000）：ホームセンターチェーンにおける出店・配送システムの空間構造。地理学評論 73, 783-801。

小池和男（2000）：『聞き取りの作法』東洋経済新報社。

小山 隆（2005）：研究倫理について—社会福祉研究のために—。評論社会科学 77, 19-41。

佐藤郁哉（2006）：『フィールドワーク 増訂版 書を持って街へよう』新曜社。

佐野真一（2001）：『私の体験的ノンフィクション術』集英社。

鈴木淳子（2005）：『調査的面接の技法 第2版』ナカニシヤ出版。

須藤健一編（1996）：『フィールドワークを歩く—文科系研究者の知識と経験—』嵯峨野書院。

高橋伸夫・溝尾良隆編（1989）：『地理学講座 第6巻 実践と応用』古今書院。

谷岡一郎（2000）：『「社会調査」のウソ リサーチリテラシーのすすめ』文藝春秋。

野間晴雄ほか編（2012）：『ジオ・パルNEO—地理学・地域調査便利帖』海青社。

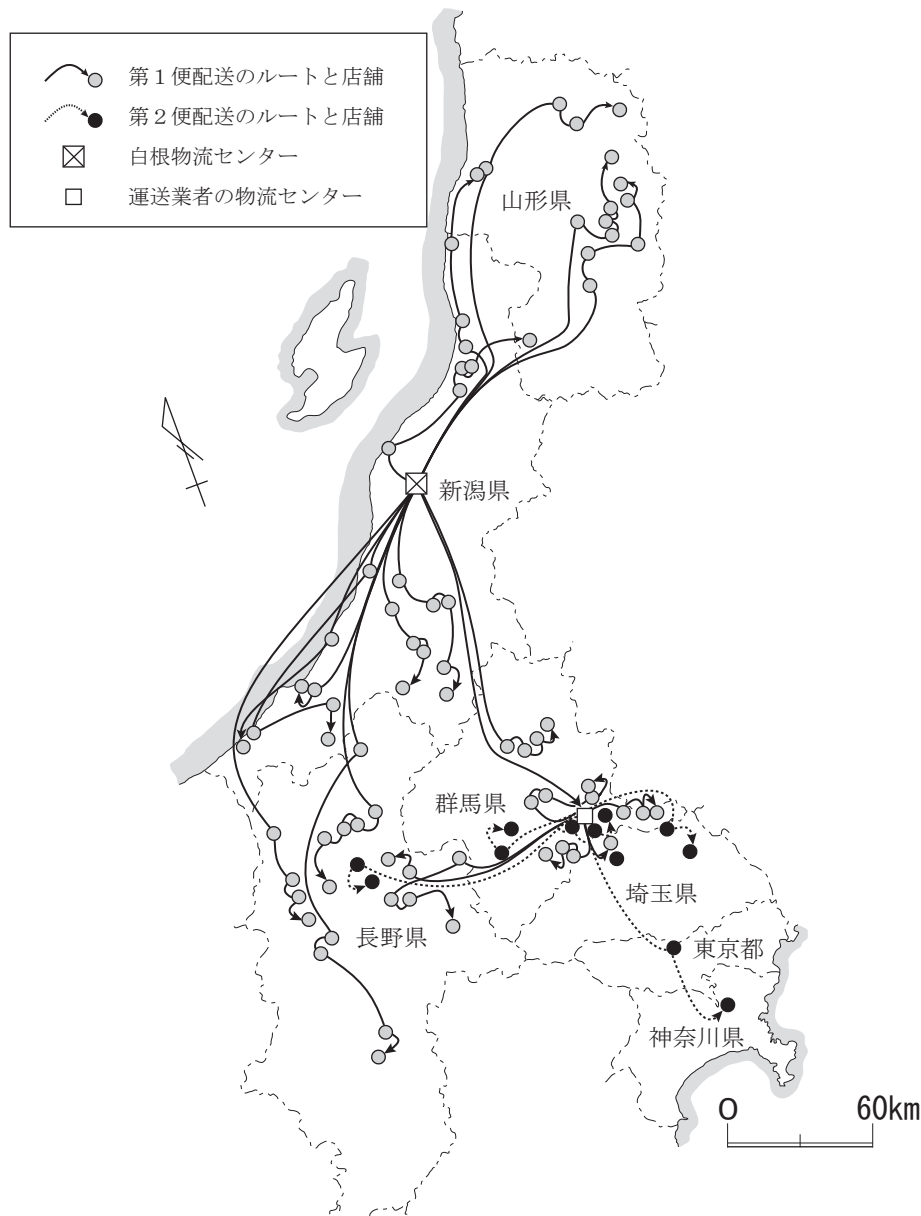


図1 K社白根物流センターにおける閑散期の夜間配送ルート
(兼子 2000)

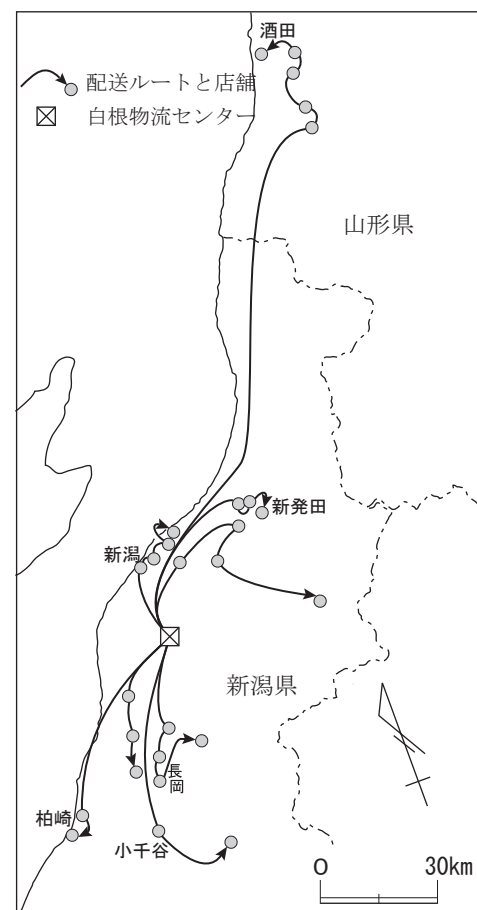


図2 K社白根物流センターにおける閑散期の午前配送ルート
(兼子 2000)

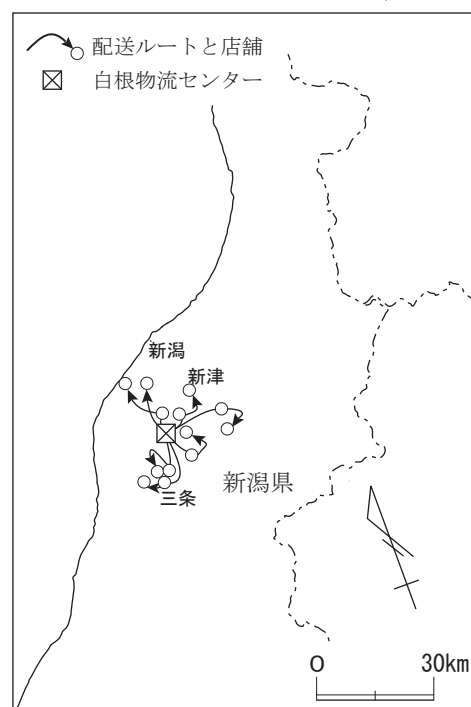


図3 K社白根物流センターにおける閑散期の午後配送ルート
(兼子 2000)

2011年11月12日施行

人文地理学会倫理綱領

前文

人文地理学会は、人文地理学の調査・研究、教育および学会の運営にあたって依拠すべき倫理上の基本原則を定め、ここに「人文地理学会倫理綱領」を制定する。人文地理学会の会員は、人文地理学研究の発展と社会への貢献のために、本綱領を十分に理解して、これを遵守しなければならない。

人文地理学の調査・研究は、地表上のあらゆる地域と人々を対象とする。会員は、その研究が社会の信頼と負託の上に成り立つものであることを認識し、調査・研究の対象となる地域と人々に対して、常に公正を重んじ、真摯に判断し行動しなければならない。また、人文地理学の教育、指導、その他さまざまな実践に携わるときも、学問の公共性と社会的責任を十分に自覚し、学習者や知識、技能の受け手に対して、本綱領の趣旨を正しく伝えなければならない。

図5 学会の倫理綱領
(人文地理学会HPより引用)

人権の保護及び法令等の遵守への対応 (公募要領5頁参照)

本欄には、研究計画を遂行するにあたって、相手方の同意・協力を必要とする研究、個人情報の取り扱いの配慮を必要とする研究、生命倫理・安全対策に対する取組を必要とする研究など法令等に基づく手続きが必要な研究が含まれている場合に、どのような対策と措置を講じるのか記述してください。

例えば、個人情報を伴うアンケート調査・インタビュー調査、提供を受けた試料の使用、ヒト遺伝子解析研究、組換えDNA実験、動物実験など、研究機関内外の倫理委員会等における承認手続きが必要となる調査・研究・実験などが対象となります。

なお、該当しない場合には、その旨記述してください。

図4 科学基盤研究費の研究倫理項目
(科研費基盤研究申請書より引用)

基盤A・B (一般) - 12